



コミュニティ政策学会

コミュニティ政策学会

Japan Association for Community policy

Newsletter No.50 (2023.6.6)**第22回学会大会（世田谷）のお知らせ****第22回学会大会（世田谷）開催のご案内
「世田谷から考えるコミュニティ政策の可能性
～自律分散する住民まちづくり～」****開催趣旨**

住民まちづくりの先進地域の一つともいわれる世田谷区。都市デザイン室による参加型まちづくり、まちづくりファンドやプレーパークなど住民主体の活動の数々は、全国の住民まちづくりに大きな影響を与えた。しかし、2000年代以降は活動や体制の硬直化などから「周回遅れのトップランナー」と言われることもあった。こうしたなか、保坂区政の「観客からプレイヤーへ」の標語のもと進められた空き家活用事業、グリーンインフラの整備、下北沢駅前再開発、また2010年代の新しい住民プレイヤーの勃興など、全国的にも注目し得る新しい動きが芽生えている。近年の世田谷の住民まちづくりは、団体ではなくパーソナルなネットワークを基盤に、それぞれの地域や分野で即興的に活動を生み出す「自律分散」が大きな特徴といえる。従来の住民団体によるまちづくりから、自律分散する住民まちづくりへのシフトによって、地域を構成する多様なステークホルダーの関係性はどのように変化するのか、コモンズの所有、利用、マネジメントがどのように進化するのか、そしてこうした潮流がコミュニティ政策のあり方をどう書き換えていくのか。世田谷のこれまでとこれからをたどりながら、コミュニティ政策の可能性を考えたい。

開催概要

- 開催地：東京都世田谷区
- 大会日程：2023年7月1日（土）、2日（日）
6月30日（金） エクスカーション
- 会場：東京都市大学世田谷キャンパス7号館
〒158-8557 東京都世田谷区玉堤1-28-1 TEL.03-5707-0104（代表）
- 主催：コミュニティ政策学会
- 後援：世田谷区、世田谷区教育委員会、一般財団法人世田谷トラストまちづくり
- 開催方法：対面（オンライン対応不可）

●大会概要

6月30日（金曜日）エクスカージョン

下北線路街：「シモキタらしい」人々の営みが生み出す都市空間

小田急線の地下化に伴い 2022 年に全面開業した「下北線路街」は、シモキタらしい再開発事例として注目されている。ありきたりの大型道路や高層化による駅前再開発事業に対する反対運動から、住民、行政、事業者の対話がどのようにはじまり、展開してきたか。単なる意見聴取や合意形成ではなく、人々の「シモキタらしいマインドや行動」が主体となることで実現した都市空間の生成プロセスを振り返る。

《登壇者》

- ・保坂展人氏（世田谷区長）
- ・下平憲治氏（Never Never Land 店主）
- ・橋本崇氏（小田急電鉄）
- ・コメンテーター：中島伸氏（東京都市大学）
- コーディネーター：坂倉杏介（東京都市大学）、市川徹氏（世田谷社）

15:00～ まちあるきセッション（定員 20 名）

集合場所：北沢タウンホール 3F ミーティングルーム

※14:45 受付開始

17:00～ ディスカッション（定員 50 名）

会場：北沢タウンホール 3F ミーティングルーム

※16:30 受付開始

参加費：無料

要予約 申し込みは下記 Google form からお願いします。

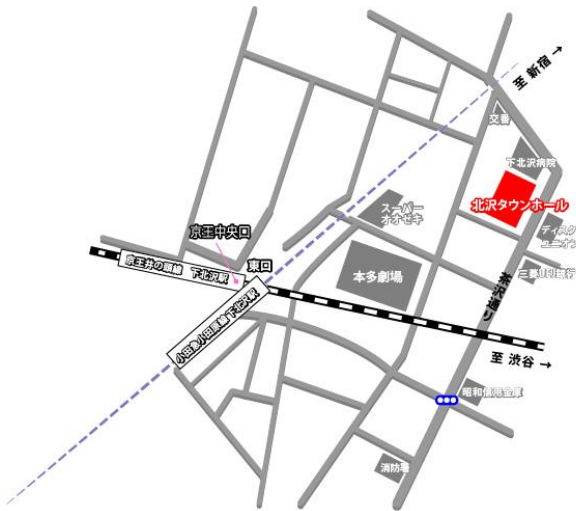
<https://forms.gle/52sCoYuvMu8zq8zH8>

※エクスカージョンに参加するためには、学会大会への参加申込と参加費支払いが必要です。事前に申込サイト（peatix）で参加費支払手続きを済ませてから、本フォームでエクスカージョンの申し込みを行ってください。参加申込と参加費支払いが確認できた方から順番に受付いたします。なお、受付が完了次第、事務局から折り返し、連絡いたします。

申し込み受付期間：2023年6月6日（火）～6月27日（火）

集合場所、ディスカッション開催場所

北沢タウンホール：〒155-8666 東京都世田谷区北沢 2-8-18



小田急線下北沢駅東口 徒歩 5 分
 京王井の頭線下北沢駅京王中央口 徒歩 5 分
 ※詳細は公式 Web サイト「北沢タウンホール
 (北沢区民会館)」でご確認ください。

<https://www.setagaya.co.jp/kuminkaikan/kitazawatownhall/>

<https://www.setagaya.co.jp/kuminkaikan/kitazawatownhall/access.html> より転載

●タイムスケジュール

7月1日(土曜日) 11:30~17:00 【1日目】

- 11:00 総会受付(7号館1階ロビー)
- 11:30~12:30 コミュニティ政策学会 総会(71A教室)
- 12:30 大会来場者受付(7号館1階ロビー)
- 13:00~13:15 挨拶(71A教室)
- 13:15~15:30 全体セッション
 「自律分散型コミュニティは可能か~世田谷のいまとむかしから考える」
- 16:00~17:30 分科会 1-1(71B教室)
 「世田谷まちづくりファンドの成果をどのように引き継ぐか」
 分科会 1-2(73C教室)
 「次世代のまちの担い手としての創発的コミュニティ、
 または DAO 的まちづくりの可能性をめぐって」

7月2日(日曜日) 9時00分~16時30分 【2日目】

- 8:30 2日目のみの来場者受付開始(7号館1階ロビー)
- 9:00~10:20 自由論題報告部会 1-1(71A教室)
 自由論題報告部会 1-2(71B教室)
- 10:30 ポスターセッション ポスター掲示開始(7号館1階ロビー)
- 10:30~12:30 自由論題報告部会 2-1(73B教室)
 自由論題報告部会 2-2(73C教室)
- 12:30~13:00 ポスターセッション コアタイム(7号館1階ロビー)
- 13:00~14:30 分科会 2-1(71A教室)
 「区民版子ども子育て会議に見る子育て支援施策の形成プロセス」
 分科会 2-2(71B教室)
 「世田谷でのみどりのまちづくりの変遷と可能性
 ~みどりを通じたコミュニティ形成への展開~」

分科会 2-3 (73C 教室)

「データで読み解く世田谷区の地域特性と地域コミュニティ」

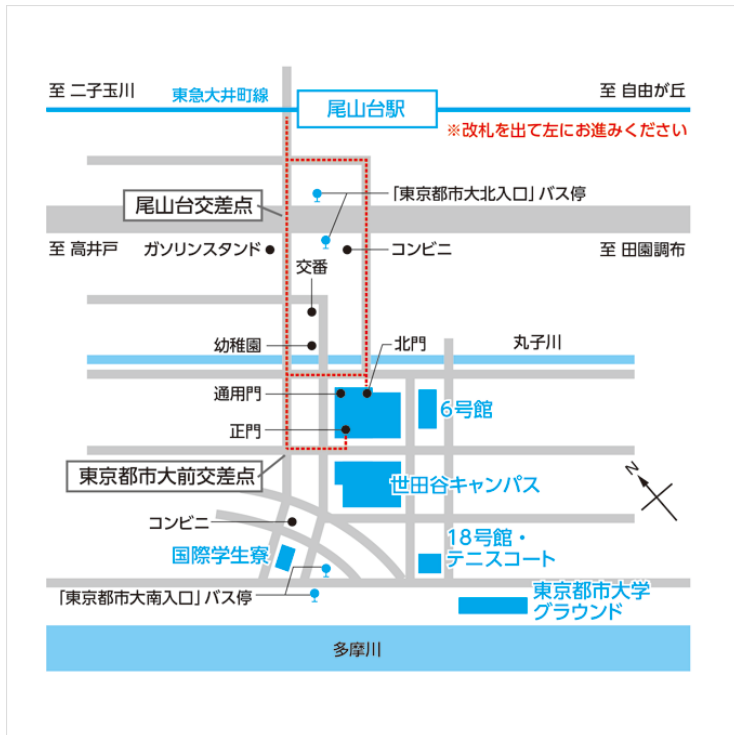
15:00~16:30 分科会 3-1 (71A 教室)

「プレーパーク活動から考える住民と行政の協働」

分科会 3-2 (71B 教室)

「世田谷における「福祉のまちづくり」の軌跡をたどる」

●会場までのアクセス



東急大井町線尾山台駅 徒歩 12 分

※詳細は、公式 Web サイト「東京都市大学」でご確認ください。

<https://www.tcu.ac.jp/>

<https://www.tcu.ac.jp/access/>より転載

●プログラム詳細

7月1日(土曜日) 11:30~17:00 【1日目】

13:00~13:15 挨拶 (71A 教室)

- ・ 名和田是彦 (コミュニティ政策学会会長、法政大学教授)
- ・ 玉野和志 (コミュニティ政策学会世田谷大会実行委員長、放送大学教授)
- ・ 三木千壽氏 (東京都市大学学長)

13:15~15:30

全体セッション

「自律分散型コミュニティは可能か～世田谷のいまとむかしから考える」

世田谷区は 1970 年代から住民主体のまちづくりを掲げてコミュニティ政策を施行してきたが、地域行政制度の条例化や、30 年続いた世田谷まちづくりファンドの終了など、現在大きく変化しようとしている。一方で、世田谷区内では自律分散型とも捉えられる組織化にはなじまない活動が増加してきている。そこで、これまで多様に展開してきた市民活動の状況を振り返りつつ、新しい状況をふまえた世田谷の今後を展望することにしたい。

- ・ 齋藤啓子氏 (武蔵野美術大学)

- ・市川徹氏（世田谷社）
 - ・饗庭伸氏（東京都立大学）
 - ・坂倉杏介（東京都市大学）
 - ・コメンテーター：玉野和志（放送大学）
- コーディネーター：小山弘美（関東学院大学）

16：00～17：30

分科会 1-1（71B 教室）

「世田谷まちづくりファンドの成果をどのように引き継ぐか」

1992年に設立された公益信託世田谷まちづくりファンドは、多くの住民主体の活動を支援し、助成団体同士の交流を生み出してきた。しかしながら、2024年度をもってまちづくりファンドの助成は終わりを迎える。ファンドがこれまで世田谷の地で紡いできたものは何なのか、またこれをどのように引き継いでいくのか、この部会で考えていくことにしたい。

- ・小山弘美（関東学院大学）
 - ・風間委文子氏（一般財団法人世田谷トラストまちづくり）
 - ・福永順彦氏（有限会社プレイス）
 - ・上原幸子氏（NPO 法人砧・多摩川あそび村、武蔵野美術大学）
 - ・コメンテーター：乾亨（立命館大学）
- コーディネーター：市川徹氏（世田谷社）

分科会 1-2（73C 教室）

「次世代のまちの担い手としての創発的コミュニティ、または DAO 的まちづくりの可能性をめぐって」

地域の課題解決ではなく、個人の「好き」や「やりたい」を動機にパーソナルなネットワークをひろげ、次々に多様な活動を生み出していく「創発的なコミュニティ」が全国で見られるようになった。世田谷でも「おやまちプロジェクト」や「チーム用賀」など、2010年代半ば以降、活発な動きが生まれている。こうした動きは今後のまちの中心的なアクターとなっていくのか。また SNS の先には、コモンズをデジタル的に醸成する DAO などの活用が視野に入る。コミュニティ政策の視点から、これらの可能性を展望する。

- ・高野雄太氏（(一社)おやまちプロジェクト）
 - ・新井佑氏（neomura、チーム用賀）
 - ・武井浩三氏（neomura、チーム用賀）
 - ・コメンテーター：谷亮治（京都市まちづくりアドバイザー）
- コーディネーター：坂倉杏介（東京都市大学）

7月2日（日曜日）9時00分～16時30分【2日目】

9：00～10：20

自由論題報告部会 1-1（71A 教室）

①金谷一郎（大阪経済法科大学）

大阪市生野区御幸森を事例に地域活性化のネットワーク形成の検討

②村松英男（宇都宮大学地域創生科学研究科博士後期課程）

国際移住者の意識の変容に関する研究—小規模民間支援グループへのインタビュー調査を通して—

自由論題報告部会 1-2 (71B 教室)

①谷亮治・山田大地（京都市役所）

コロナ禍における市民活動の新設と展開プロセス～京都市伏見区醍醐地域 MK 氏の活動のケーススタディ

②川村真也・羽後静子・勝信博（中部大学・春日井市役所）

大学と商店街の連携による持続可能なまちづくり 「勝川スタイル」の提案に向けた研究

－春日井市勝川駅前通り商店街を事例として－

③岡田衣津子（日本福祉大学）

住民主体の地域活動の創出に関わる支援者のあり方について～名古屋市牧野町の取り組みを事例に～

10：30～12：30

自由論題報告部会 2-1 (73B 教室)

①杉岡秀紀・鍋島野乃花（福知山公立大学・綾部市）

コミュニティ政策としてのコミュニティナースの可能性

②古市太郎（文京学院大学）

地域福祉コーディネーターの伴走によるテーマ型活動の自立と展開

～一般社団法人・学習支援 A を事例にして～

③浅石裕司（日本福祉大学）

地域福祉・まちづくり活動における「楽しさ」概念の検討

－住民の主体性の醸成につながる理論構築を目指して－

④手島洋（県立広島大学）

地域の複合的な福祉課題とその解決に向けた連携の現状と課題

自由論題報告部会 2-2 (71C 教室)

①津富宏（静岡県立大学）

市民による市民マニフェスト策定の試み

②竹野克己（法政大学ボアソナード記念現代法研究所）

国土計画と市民参加

③吉村輝彦（日本福祉大学）

コミュニティビジョニングの可能性と課題～東海市における地域の将来像策定の取り組みを事例に～

④北野哲也（ひと・まち・未来研究所）

住み続けられるまちづくり

12：30～13：00

ポスターセッション コアタイム (7号館 1階ロビー)

※10：30～ポスター掲示開始

コアタイムは、発表者がポスター前で質疑応答などの対応を行います。

①村山史世（麻布大学）

Google App Sheet を活用したまち歩きとデジタルマッピングの実践

②土屋薫（江戸川大学）

柏駅周辺の「パブリックライフ」から見たライフデザインの可能性

③菊地敦子（宇都宮大学地域創生科学研究所）

地方における圏外出身者の育児期母親の WFC を緩和したワークスタイルの創出

④林香織（江戸川大学）

通行量調査からみた地域イベントの評価 ―ながれやまオープンガーデンを事例に―

⑤伊藤雅春（明星大学）

コミュニティを編むーコミュニティ・デモクラシーを実現する熟議の渦の可視化ー

⑥杉崎和久（法政大学）、市川徹（世田谷社）

まちづくり資料の継承のための取組～世田谷まちづくり文庫公開資料整理会について～

⑦コミュニティマネジメント研究室（東京都市大学）

ポコポコ生まれるとゴロっと変わる！？おやまちリビングラボ

13:00～14:30

分科会 2-1（71A 教室）

「区民版子ども子育て会議に見る子育て支援施策の形成プロセス」

2015年に子ども・子育て支援新制度が開始、それに伴い各自治体で子ども・子育て会議が設置され、独自に子育て支援策の充実が図られることになった。しかし、公募委員として反映できる内容は限定的なものとならざるを得ない。そこで企画されたのが「区民版子ども・子育て会議」である。せたがや子育てネットが呼びかけ、支援団体や個人、行政などが立場を超えて話し合う場となり、区の子育て支援施策の形成に果たしてきた役割は大きいと考える。本分科会ではこの会議の意義や特徴について浮き彫りにすることにしたい。

- ・松田妙子氏（NPO 法人せたがや子育てネット）
- ・島川佳子氏（世田谷区子ども家庭課）
- ・久米朋子氏（区民版子ども子育て会議および区の子ども子育て会議区民公募委員）

○コーディネーター：後藤智香子氏（東京都市大学）

分科会 2-2（71B 教室）

「世田谷でのみどりのまちづくりの変遷と可能性～みどりを通したコミュニティ形成への展開～」

世田谷でのみどりのまちづくりは1989年に設立された「せたがやトラスト協会」（現在は世田谷トラストまちづくり）にまで遡ることができる。協会は都市型のトラスト運動を推進する組織として普及啓発やボランティアとのみどりの保全に取り組んできた。一方、住民発意の新たな動きとして「タマリバタケ」と「シモキタ園藝部」に着目したい。タマリバタケは区有地を畑・交流の場として活用し、シモキタ園藝部は小田急線の線路跡地を緑化しみどりを育てている。両事例とも、みどりをともにする暮らしを生み出し、まちと住民、住民同士をつなごうとする取り組みである。都市におけるみどりの価値を再確認した上で、みどりを通したコミュニティ形成の可能性を議論したい。

- ・荒井千鶴氏（一般財団法人世田谷トラストまちづくり）
- ・asaco氏（NPO 法人 neomura/タマリバタケ）
- ・柏雅弘氏（一般社団法人シモキタ園藝部）
- ・ファシリテーター：山田翔太（一般財団法人世田谷トラストまちづくり）

○コーディネーター：土屋薫（江戸川大学）

分科会 2-3（73C 教室）

「データで読み解く世田谷区の地域特性と地域コミュニティ」

本格的にEBPM（Evidence Based Policy Making エビデンスに基づく政策立案）の推進に取り組む自治体が増えてきている。もとは国が国民への説明責任を果たすために進められてきた「EBPM」ではあるが、常に身近な地域課題に取り組む基礎的自治体においては、住民とともに地域のことを考えていくための「ツール」とし

でも捉えることができる。世田谷区では「参加のまちづくり」をキーワードに、まちづくりを行ってきており、今後は新たな「参加」のかたちとして「データ」をもとに身近な地域活動の方向性を考える機会が増えていくと思われる。わがまちの今と未来を考えるためのデータとしてどのようなものが必要か、どのようなデータがあれば地域のコミュニティ活動を捉えることができるのか、捉えたデータをどのように使っていくのかを、これまでの研究所の研究結果とコミュニティの現状を踏まえて考える。

- ・田中陽子氏（せたがや自治政策研究所）
 - ・金澤良太氏（東洋大学）
 - ・井上 文氏（NPO法人サース）
 - ・伊藤雅春（NPO法人玉川まちづくりハウス）
 - ・ファシリテーター：小山弘美（関東学院大学）
- コメンテーター：玉野和志（放送大学）

15:00～16:30

分科会 3-1 (71A 教室)

「プレーパーク活動から考える住民と行政の協働」

世田谷区では1987年の「新基本計画」において初めて「協働」が目指されたが、1979年に羽根木プレーパークが公設民営で設立され、行政と市民活動との「協働」で運営されてきた経験が大きかったともいわれている。当時、住民参加が目指されながらも、行政主導が当たり前だった時代に行政との対等な協働関係を築いてきた。こうしたプレーパーク活動を軸にして、3つの視点・立場から話を聞き、行政と住民や市民活動との協働のありようを考えたい。

- ・荒木直子氏（NPO法人プレーパークせたがや）
 - ・稲垣豊氏（世田谷区公園緑地課）
 - ・根本暁生氏（NPO法人冒険あそび場せんだい・みやぎネットワーク）
 - ・コメンテーター：名和田是彦氏（法政大学）
- コーディネーター：小山弘美（関東学院大学）

分科会 3-2 (71B 教室)

「世田谷における「福祉のまちづくり」の軌跡をたどる」

参加型まちづくりの先進自治体と言われていた世田谷区において、「福祉のまちづくり」は中心となる取り組みであった。1980年代に都市デザイン室が主導し、梅が丘地区などで当事者参加が進められたハード整備からはじまり、その後条例づくりなど政策形成への参加へと展開していった。また、世田谷では、1970年代からはじまる障害者の自立生活を求める当事者を中心とした運動が生まれ、これらの動きを踏まえた協働の取り組みとなっている。世田谷区は、2000年頃福祉的環境整備推進地区の取り組みがはじまり、支所ごとにモデル地区が選定され、当事者を含む地域住民と行政が協働して地区のハード・ソフト両面を行ってきた。世田谷の参加型まちづくりを先導したとも言える「福祉のまちづくり」の軌跡をたどり、ひとりひとりの当事者から地域の多様な主体のネットワークに展開した取り組みを振り返る。

- ・荻野陽一氏（世田谷区自立支援協議会）
 - ・宮地成子氏（場所づくり研究所プレイス／烏山ネット・わあ〜く・ショップ世話人）
 - ・男鹿芳則氏（元世田谷区職員）
 - ・寺内義則氏（国土舘大学）
- コーディネーター：杉崎和久（法政大学）

【参加費、申し込み方法】

●大会参加費

会員 3,000 円

学生会員 1,000 円

非会員 3,000 円

●申し込み方法

大会参加申し込みと参加費の支払いは、事前に下記サイト（peatix）からお願いいたします。大会開催当日の現金は原則として受付ができません。大会の円滑運営に向け、事前のお申込みにご協力ください。

申し込み受付期間：2023年6月6日（火）～6月27日（火）

お問い合わせ：学会事務局メール office@jacp-official.org

<https://jacp-setagaya2023.peatix.com/>



【その他】

- ・当日、会場内では飲食の販売はありませんので、各自ご用意ください。
- ・フリーWi-fi サービスはございません。

コミュニティ政策学会会員動向

(2022年11月20日から2023年5月31日)

〈入会〉

No.	会員氏名	所属等	推薦人	種別
1	川上富雄	駒澤大学		個人
2	浅石裕司	日本福祉大学	岡田衣津子	個人
3	吉澤卓	大東文化大学	杉崎和久	個人
4	足名笙花	宇都宮大学、自由教育滝野川高等学院	石井大一郎	学生

〈退会〉

No.	会員氏名	所属等	種別
1	河井孝仁	東海大学	個人
2	山崎丈夫	愛知学泉大学	個人
3	鳥淵朋子	大阪市立大学大学院	学生
4	杉谷和哉	岩手県立大学	個人
5	東根ちよ	大阪公立大学	個人
6	林健志	京都市	個人
7	長谷部英司	栄東地区まちづくり未来会議	個人
8	河野利一	明石市	個人

事務局からのお知らせ

- 2023年度の会費請求は会員管理システムを通じて行っています。個人会員は年額8,000円（ただし学生会員は年額5,000円）、団体会員は年額30,000円です。請求書払いをご希望の場合は事務局までお知らせください。
- 会員管理システムへのログインページは、<https://jacp.smoosy.atlas.jp/mypage/login>です。会員番号もしくは登録のアドレスと、パスワードを入力してください。会員管理システム上で、下記を確認・変更することができます。
 - ・請求書の発行（入金後は発行できません）
 - ・請求明細の確認（入金後に確認可）
 - ・領収書の発行
 - ・会員情報の確認と変更
- 会員管理システムやその他お問い合わせは事務局にお願いいたします。連絡先は下記の通りです。

コミュニティ政策学会 Newsletter No.50

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1 法政大学法学部気付

TEL 03-3264-9441

E-mail office@jacp-official.org <https://jacp-official.org/>

発行日 2023年6月6日 編集 事務局 伊藤、杉崎、林、土屋